

総合的な学習の時間 ～学校のひみつを探ろう～

目標

- ・「もの」「ひと」「こと」に対する興味や疑問などから課題を見付け、追究する学びの素地を育む。
- ・南区でイチゴの生産・収穫、輸送に携わる人の努力や工夫などの人の営みを共感的に受け止める態度を育む。
- ・追究の目的を共有する友達と、課題解決のために協同的に追究する力を育む。
- ・単元を通して調査したことや話合いの結果などを様々な表現方法で表現するとともに、学習を通して気付いたことや考えたことを伝え合う力を育む。
- ・互いの見方や考え方を交流し合ったりすることを通して、「もの」「ひと」「こと」に関わることを多角的に捉え、食に関する意識を高める。

育てたい力

- 学年全体で追究するテーマに沿って、個々に追究課題を見付け、解決の見通しをもちながら、調べ方や表現の仕方を獲得する。
- 果樹園での実際の体験活動を通して、それに携わる人々への思いを深めるとともに、南区の自然や産業に目を向け、関心を高めるとともに、食や自然環境とのつながりを考え、生活に生かそうとする実践力を育てる。

主な学習活動（学校のひみつを探ろう：10時間、さけの研究：15時間）

調べるテーマを決めよう
(5月)

調査の方法を獲得しよう
(6月)

テーマについて調べよう
(6～7月)

調べたことをまとめ、伝えよう
(8～9月)

・南小について、知っていることを基に、場所や歴史等のクイズに出し合うことを通して興味・関心をもたせ、学校について再認識し、調べたり発見したりしようとする意欲を高めた。その後、調べるテーマを各自決めた。

・調べ方を考え、調査の計画を立てた。
・インタビューの仕方について学んだ。
・グループで協力しながら、調査活動を行った。(インタビュー体験等)

→調べ方の基礎を身に付けた上で、活動範囲を広げた。
南小の地域の歴史から、果樹園の存在に目を向け、果樹園での調査の目的を捉えた。

《6月26日に定山溪ファームで現地調査》

・体験や見学、質問をして、追究テーマについて調べた。

・現地調査で分かったことや考えたことを中心にポスターを作り、それを生かして伝えた。

・学校よさや地域の歴史について改めて考え、学習を振り返った。

・持ち帰ったランナーを大切に、翌年実がなるように世話をした。

『さけの研究』←南区の自然との関連から

・南区の豊かな自然を生き物という視点から8月に「さけ科学館」に行き、これまでの学習経験も生かし、個々に追究した。



農園の方からの説明



イチゴ狩り体験



ランナー植え

取組を終えて

子どもの声（感想）

イチゴは命をつなぐために、たくさんの種をつくることや、その地域の気候に合わせてたくさんの種類があることに気付きました。ランナーを切り、そこから翌年のイチゴが育つということも初めて知りました。

取組の成果

実体験や農園の方からの話を通して、作物を育てることの苦労や工夫、願いを理解できた。子どもの質問にも丁寧に答えてくださり、体験したことと相まって自然の大切さ・偉大さ等についても学ぶことができた。南区の自然の豊かさを深く実感することができ、とても有意義な学習となった。

体験先、関係機関

定山溪ファーム（札幌市）